

標茶町議会第3回定例会

一般質問通告一覧

令和8年9月3日

No. 1

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
11番	深見迪	1. 児童・生徒の安全のためと保護者等の負担軽減のために通学時の持ち物軽減を	・文部科学省は、全国の自治体や教育委員会に対し、保護者が購入している小中学生の補助教材を学校の備品として整備するよう検討を求める通知を出した。何を目的としてどのような内容か。 ・児童・生徒の持ち物については以前も質問したが、一部教材のいわゆる「置き勉」などで通学時の負担が軽くなったと思うが、依然としてランドセルのほかに水筒や学習用具など両手がふさがっているような状態が多い。ランドセルのほかに両手がふさがるような過重な持ち物を持たせるのは、転倒したときなど安全性を保てるか疑問であると考えているがどうか。 ・文科省の通知のねらいは保護者等の負担軽減だが、「これまで保護者等負担で毎年購入していた教材（例：算数セット、彫刻刀、裁縫セット等）を学校備品として整備することで、保護者等の負担軽減を図った事例があるとして、各教科等で使用する教材のうち、学校に備えるべき品目や数量の目安を「教材整備指針」として示しており、それらを自治体が整備できるよう所要の地方財政措置を講じている」とあるが、具体的な財政措置の内容について聞く。 ・また、各教育委員会などでこのような負担軽減について、学校向け用ガイドラインの作成を促しているが、それは現在どのような状況になっているか。	教育長	
		2. デジタル教科書は子どもの学力や健康に悪影響を与えないか	・デジタル教科書を正式な教科書とする関連法が6月付、国会で成立した。紙の教科書からデジタル教科書への転換は子どもの学力や健康にどのような影響を与えるか教育長の所見を聞きたい。 ・「デジタルが学校の授業時間を支配すべきではない」としたノルウェーのノルトゥン教育相の日本に対する助言があった。ノルウェーは10年前からデジタル教科書を使用し、いわばデジタル教育の先進国であったが、10年経って「生成AI（人工知能）は小学校では原則使えないようにする」と表明するなど、日本とは逆の大転換をしつつある。今後紙の教科書をベースにして必要な時にデジタルを活用する方針を打ち出し、深い思考に紙は必要だと言われたが、この点について教育長の見解を聞く。	教育長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
11番	深見 迪		・ノルトゥン教育相は「デジタルの機器や教材に過度に重点を置けば、学習上の大きな問題が発生する恐れがある。日本には、私たちが犯した過ちを繰り返さないように、と助言したい」と訴えたが、この点についての教育長の見解を聞きたい。 ・文科省はこの秋にも具体的な方針を出すとしているが、どのようなことが予想されるか。		
		3. 財政再建のスキームの全体像を明らかにすべきだ	・令和8年8月20日の全員協議会で「育成牧場施設使用料及び手数料について」と「めん羊料金」についての説明があったが、これまで様々な各部署での提案があり、また議会が周知しない中での様々な人事、事業の縮小などがある。来年度に向けた財政再建計画がどの程度の金額になるか、また計画の考え方やスキームなどが議会にはいまだ説明されていない。財政再建計画の財政面や総合的な計画について、例えばどの分野でどの程度の財政計画を今後実施しようとしているのかを明らかにすべきではないか。	町 長	
5番	鴻池 智子	1. 旧阿歴内小中学校の利活用について	令和5年2月、総務経済委員会の事務調査において、閉校校舎の有効利用をテーマに旧阿歴内小中学校を視察しました。その後も同僚議員から数回にわたり、旧阿歴内小中学校の利活用について質問がなされてきました。 これまでの答弁では、旧阿歴内小中学校を公民館、農協事業所、消防団施設などを複合的に配置する施設として整備する方向で調整し、令和9年度の移転・共用開始を予定して取り組んでいるとのことでありました。しかしながら、現在の厳しい財政状況を踏まえますと当初の計画どおり事業を進めることが適切なのか、改めて検討する必要があると考えます。 そこで、以下について伺います。 1点目として、旧阿歴内小中学校の利活用について、現在までの具体的な進捗状況を伺います。 2点目として、令和9年度の移転・共用開始という当初の計画について、今後も継続案件として進めていく考えなのか、それとも財政状況等を踏まえ、計画内容や事業規模、スケジュールなどの見直しを考えているのか、町の考えを伺います。 3点目として、現在、外部から旧校舎を利用したいという要望や相談があるのか、また今後の利用者の募集や活用の可能性について、どのように考えているのか伺います。 閉校した学校施設は、地域にとって貴重な財産であります。一方で、施設を維持・	町 長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
5番	鴻池智子		改修していくためには、将来的な財政負担も十分に考慮しなければなりません。単に施設を残すという視点だけではなく、地域の活性化や住民の利便性向上につながる施設として、将来にわたって持続可能な活用方法を検討する必要があると考えます。 町として旧阿歴内小中学校を今後どのような施設として位置付け、将来的な維持管理費も含め、どのような考え方で整備を進めていくのか、町長の見解を伺います。		
		2. 観光協会のトイレ改修について	観光客や地域住民が利用する施設として、トイレ環境の整備は観光振興や利用者の利便性向上の観点からも重要であると考えます。 現在、観光協会のトイレ改修について、今後どのような方向で整備を進めていく考えなのか、改修の必要性や具体的な計画、財源の確保を含め、町の今後の方針を伺います。 例えば、市町村が主体となり整備する観光地であれば「市町村振興宝くじ」の収益金を財源として、自治体独自の予算で改修できる場合もあり、また各都道府県や国の観光庁では、観光協会や民間団体を対象として、「観光公衆トイレ整備補助金」や「インバウンド対応トイレ整備補助金」を定期的に募集しています。 様々な方法で検討してみるべきと考えますが、町長の見解を伺います。	町長	
2番	櫻井一隆	1. ぽん・ぽんゆ脇に設置されている馬用パドック柵について	1. 茅沼温泉施設ぽん・ぽんゆの旧パークゴルフ場の跡地に縦横 20 メートルの柵が設置されている。設置するに至った理由とその使用目的について伺う。 2. 資金はどの予算から支出されたのか。また、工事金額について伺う。 3. 冬季も使用する計画なのか伺う。	町長	
10番	渡邊定之	1. 地域・自治体主導の取り組みによる個別型バイオガスプラントの促進を	家畜の糞尿対策として本町が取り組んできたバイオガスプラントの設置について議論が交わされてきたが、現在のエコヴィレッジ推進協議会での議論はどうなっているか。 バイオガスプラントは地球温暖化などの環境問題の対策としても関心が高く、さらに消化液の肥料効果についても注目されており、サイレージの質の改善や雑草が減少したという話も聞く。これらの点についてどのように評価しているか。 大型プラントについては、農家からは主にコスト面で導入が困難であるとの議論もされたが、個々の農家が取組みめる個別型プラントを導入することにより、地元の業者による設置や維持管理も可能になると考えるがどうか。 国が推進するみどりの食糧システム戦略技術やバイオマス地産地消対策などを研究し、バイオガスプラントの導入を検討するべきではないか。また、町として固定	町長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
10番	渡邊定之		価格買取制度の延長やクラスター事業の拡充などを要望していくべきと考えるがどうか。		
4番	鈴木裕美	1. 標茶高校への更なる支援について	町は標茶高校をなくてはならない貴重な財産と位置づけし、標茶高校教育振興会を通じた助成をはじめ、各種の支援を行っているが、寮生への支援の現状について伺う。 祝祭日などで連休の場合、舎監が不在となるため、学生寮は施錠されると聞いている。この場合、自宅に戻ることが難しい寮生への対応として、以下のことを検討してはいかがか。町長の所見を伺う。 ・標茶高校教育振興会からの助成（1泊5,000円）の範囲内で宿泊出来るよう民間宿泊施設と協議し、助成を利用する寮生向けの料金を別に設定する。	町長	
		2. 釧路湿原かや沼観光宿泊施設の利用状況と周辺施設整備について	釧路湿原かや沼観光宿泊施設は一昨年の9月30日にオープンし、2年を迎えようとしているが、これまでの施設の利用状況について、宿泊利用者数及び日帰り入浴の利用者数を町内・町外別に伺う。 また、利用者からの要望や苦情等が届いていると思うが、どのように改善しているのか伺う。建物は町所有のため施設の修理・修繕等は町の負担となると思われるが、この2年間で町が支出した金額はいくらか。 さらに、町の観光振興計画では宿泊施設周辺を整備し、指定管理者を含めてイベントを企画することとしていたが、整備状況とイベント等開催状況を聞く。	町長	
9番	松下哲也	1. 「くしろ湿原ノロッコ号」運行終了の経緯と本町への影響は	「くしろ湿原ノロッコ号」は1989年に初代車両がデビューして以来、37年にわたり釧路湿原の雄大な景観を車窓からゆっくりと眺望できる観光列車として毎年約6万人、これまで延べ約220万人の多くの観光客の皆様にご利用され、塘路駅に降り立って頂いたが、この度車両の老朽化により、10月10日のラストランをもって運行を終了するとの報道があった。これにより特に塘路地区の地域振興に与える影響が大きいと懸念されるところである。 町長として今までＪＲ北海道と様々な状況の中で要請活動をされてきていると認識しているが、以下何点かお聞きする。 1. 来年度の釧網線での観光線区としての取り組みが、8月7日にＪＲ北海道釧路支	町長	

議席	氏名	件名	質問内容	答弁を求める者	答弁内容
9番	松下哲也		社長から町に説明があったと聞いているが、どのような内容であったのか。 2. その説明内容を受けてと思うが、8月26日にJR北海道釧路支社長に対して「塘路地域における観光振興に向けた観光列車運行に関する要請」を行ったと報道されたが、その内容とそれに対するJR北海道の回答はどのようなものであったのか。 3. 来年4月から「くしろ湿原ノロッコ号」に代わり、豪華列車「赤い星」が運行されると言われているが、この列車の導入にあたって、町とJR北海道とどのような協議が行われてきたのか。また、運行回数や塘路駅・標茶駅での停車、さらに列車の滞在時間の確保等はどのようなになっているのか。 4. 町長は以前より、新しい車両の製造やつなぎとして継承されるノロッコ号の代替運行についてもJR北海道に要請を行ってきていると思うが、その成果はどうか。 5. 37年にわたり標茶町の観光を支えてきた「くしろ湿原ノロッコ号」が終了することは「釧路から列車で湿原を抜け、標茶方面へ」という観光ルートそのものが弱くなることが懸念され、標茶町観光ブランドへの打撃は大きなものとする。釧路湿原＝ノロッコ号」というイメージが非常に強く浸透してきた中で、来年の夏には釧路湿原国立公園の指定40周年を迎える。ノロッコ号によって培われた「釧路湿原」「釧網線」「塘路」というブランドを次の世代につなぐため、新しい観光戦略を構築する必要があると考えるが、令和8年度中に一定の方針を示す考えはないか、所見を伺う。		